

## 【3K113021】 3Rに係る自治体施策・行動変容プログラムの政策効果分析

(H23~H25 ; 累計交付額 32,952 千円)

松井 康弘 (岡山大学)

### 1. 研究開発目的

循環型社会の構築に向けて、市民の 3R に係る意識を高め、行動を促進することが不可欠である。各自治体では、3R 促進に向けて有料化・分別収集等の施策、普及啓発・広報に取り組まれているところであるが、その市民の意識・行動に対する効果については十分に分かっておらず、効果測定・評価手法も未成熟である。また、社会心理学分野で研究されている「行動変容手法」の応用も進んでいないのが現状である。本研究では、3R に係る自治体施策・行動変容プログラムに焦点を当て、市民の 3R 意識・行動、消費支出、ごみの発生・排出に及ぼす影響・相互関連を体系的に解明することを目的とした。

具体的な研究内容としては、①有料化や収集サービス水準などの 3R 政策とごみ・資源化物の発生・排出・3R 行動との関連性の検討、②市民のライフスタイル・家計消費と 3R 行動の関連性の検討、③3R に係る行政政策のごみ減量・リサイクル促進ポテンシャルに関する検討を実施し、それらの成果を踏まえて開発した④行動変容プログラムとその啓発効果を分析した。

### 2. 本研究により得られた主な成果

#### (1) 科学的意義

- ・ごみ・資源化物の種類別発生原単位と有料化・収集サービスなどの 3R 政策の関連を明らかにし、推定モデルを構築した。発生原単位には特に資源ごみステーション数/可燃ごみステーション数の比率 (0.4 未満・1.0)、ごみ有料化料金水準 (無料・80 円未満・80 円以上) が影響していることを明らかにし、こうした政策水準の影響について、3R 行動だけでなく情報認知・態度などの周辺要因を含めて体系的に解明した。
- ・ごみ計量モニター調査により、3R 行動に関係する品目別の発生原単位を算定するとともに、ごみ発生と個人属性・家計消費の総合関連を明らかにした。またアンケート調査によりリサイクル行動・2R 行動の予測モデルを構築した。
- ・3R 行動に対応する品目別の発生原単位、リサイクル行動・2R 行動の予測モデルを用い、「情報提供の徹底」、「外的圧力の強化」、「負担感の軽減」、「環境意識の啓発」の 4 種類の 3R 政策のごみ減量・リサイクル促進ポテンシャルを定量的に明らかにした。
- ・3R 参加率が低い若年層をターゲットとして、3R 体験イベントを通じた普及啓発を実施し、20 代・30 代で認知度・理解度が向上する等、その啓発効果が明らかとなった。
- ・リユース推進を図るための象徴的アイテムとして、リユースびん入り飲料「晴・Re・茶 (はれちゃ)」を開発した。リユースびんの環境負荷削減効果を消費者に分かりや

すく情報提供する目的で、リユースびんのカーボンフットプリント（CFP）を算定・表示し、試験販売を通じて普及に向けた課題等を明らかにした。

## (2) 得られた成果の実用化

- ・本研究では、3Rに係る自治体施策、市民の3R意識・行動、ごみの発生・排出に及ぼす影響・相互関連を体系的に明らかにした。また、「情報提供の徹底」、「外的圧力の強化」、「負担感の軽減」、「環境意識の啓発」の4種類の3R政策によって期待されるごみ減量・リサイクルの効果を定量化した。こうした成果は、3R施策の立案・優先順位付け、政策の妥当性に係る住民説明等の基礎資料として有用と考える。
- ・本研究で実施した3R体験イベントは、岡山市内の飲食店と連携して実施したものであり、市民に対する3R体験の促進、認知度・理解度の向上だけでなく、イベントに協力した飲食店に対する3Rの認知度・理解度を高めることを狙いとしている。今後も継続的に実施することで市民・事業者双方の認知度・理解度を高めていき、将来的には岡山市における3Rモデル地区・3R協力事業者のネットワーク構築を目指している。
- ・本研究で開発したリユースびん入り飲料は、リユースの環境負荷削減効果をCFPによって定量的に分かりやすく情報提供するものであり、市民に対して3Rの普及を図るための入り口と位置付けている。また飲料には岡山県産の茶葉を用いて岡山県民にとっての親近感を高め、啓発効果を増幅させることも狙いとしている。今後、リユース以外のリデュース・リサイクルについてもその環境負荷削減効果を「見える化」したアイテムを開発し、市民の3Rに関する体験の促進、認知度・理解度の向上を目指したい。

## (3) 社会への貢献の見込み

- ・本研究で示した3R政策のごみ減量・リサイクルの効果の定量化の枠組みは、基本計画等に掲げるとごみ減量・リサイクルの目標値を達成するための優先順位付け等に活用可能と考える。研究成果は、岡山大学が本年6月21日に開催する公開講座（講演予定）、岡山市が本年10月14日に開催するシンポジウム（基調講演予定）等において代表研究者が紹介するとともに、3R推進戦略を考える上での基礎資料として活用し、行政・事業者・市民との議論を深めたい。
- ・飲食イベントと連携した3R体験イベントについては、岡山市からの委託を受けて本年10月12日に開催する予定であり、2年連続で実施することとなった。今年度は市民に対する3Rの啓発効果だけでなく、事業者の3Rの協力意向等についても把握し、3Rモデル地区・3R協力事業者のネットワーク構築に向けた課題・可能性を検討したい。
- ・リユースびん飲料の開発については、代表研究者が25年度に採択された環境省「リ

ユースびん実証事業」に今年度も引き続き応募し、Reduce, Reuse, Recycle の環境負荷削減効果・優先順位を「見える化」したアイテムを開発し、その普及を通じて市民の 3R 体験促進、認知度・理解度の向上を目指したい。

- ・飲食イベント・リユースびん飲料の企画には大学生が関わっており、こうした学生の環境活動に対してテレビ・新聞等の報道機関から高い関心が寄せられ、数多くの取材があった。今後も学生のアイデア・実行力を活用して企画の質を高めるとともに情報発信に努め、3R 推進・循環型社会構築に対する社会的認知度・機運を高めていきたい。

### 3. 委員の指摘及び提言概要

いろいろとやってみて分析してみた成果はあるが、結論としては平凡である。インターネット調査の信頼性はそれほど高いとは思えない。また、政策効果分析の対象としたのは、かなり個別性が高いイベントで有り、結果の普遍性は限定的である。廃棄物発生原単位分析とのつながりがない。さらに、研究者が予見をもって描いていたシナリオから一歩も出ていないという印象を受ける。相関に関する考察が貧困である。

### 4. 評点

総合評点：B